

資料 9 第 1 期将来構想計画の結果および第 2 期将来構想検討について

「野生生物保護学会将来構想提言」(2010/9/18)

<http://www.wildlife-humansociety.org/syourai/syourai.pdf>

4) 将来構想計画を実現するために

- ・学会を安定的に無理なく運営できる財政状況にするには、会員を増やす具体的な仕掛けが必要であり、学会誌の定期発行、学会大会の早期告知の他、新たな会員拡大をめざしたチームの設置を検討すべきである。
- ・男女共同参画の視点から、学会の諸活動に女性の研究者・行政職員が参加しやすい工夫（託児コーナーの設置など）を検討すべきである。
- ・学会の活動をより特色のある幅広いものにするため、名称の変更についても検討すべきである。
- ・将来構想計画の進展を評価するため、将来構想実現化ワーキンググループを設置し、2015 年までの成果を客観的に評価し、将来構想計画を見直すべきである。

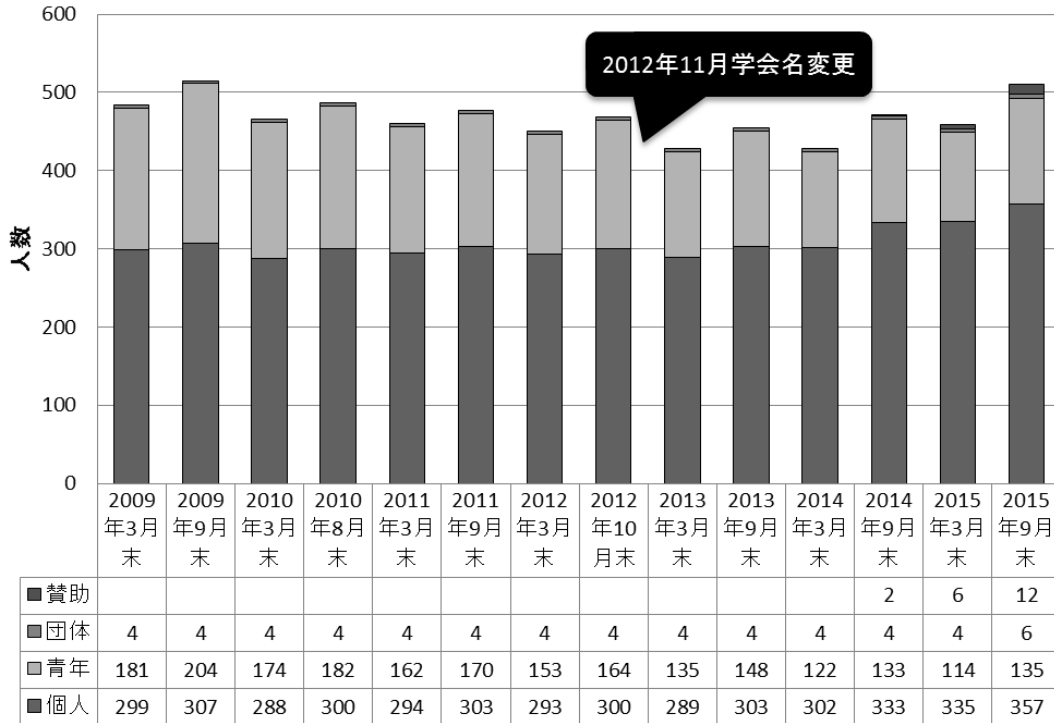
H26年度~理事会WGについて

会員拡大担当	柳川久、上田剛平、富田涼都
男女共同参画担当	岩井雪乃、八代田千鶴
若手・実務者育成担当	上田剛平、富田涼都
法改正サポート担当	羽山伸一、伊吾田宏正、草刈秀紀
財政立て直し担当	赤坂猛、鈴木正嗣、鈴木克哉

財政立て直しの当初目標は達成

⇒H26年度第 1 回理事会において、第2期将来構想検討WGを発足、

「野生生物と社会」学会 会員数の推移



大会参加者数の推移

